



**福** 島第1原発事故で不安を抱える福島、宮城、岩手の親子らが、その放射線の影響を避けて、「楽しい夏休みを過ごそう」と7月25日から8月23日

(30日間)まで洞爺湖温泉に滞在しました。滞在人数は、延べ185人。

主催したのは、国内外での植林活動やカンボジアの支援活動などに取組むNPO法人メイクザヘブンで、疎開プロジェクト「洞爺湖バケーション」の放射線から子どもを守ろうとを企画し、全国から寄付を募り実施しました。町としても、有珠山噴火で全国から支援を受けたということもあり、「洞爺湖の自然を満喫し、楽しんでいってもらおう」と多くの町民の皆さんにお手伝いをお願いして昼食会を開き、手厚くもてなしました。

そのほか期間中には、環境についての学習会や地元小学生との交流会なども行われ、参加した子供らは、多くの思い出を携え帰郷の地に着きました。

**昼食会でおもてなし**

町では、8月1日、11日の2回にわたり、被災者の皆さんを招待して昼食会を開きました。

1日に洞爺カヌー艇庫前で開かれた昼食会には、約120人が参加。子どもたちは、快晴の中、湖畔でのカヌーや水遊びに歓声をあげていました。福島県から来ていた児童は「福島では、放射線外では遊べないので、楽しい」と笑顔のをのぞかせていました。

昼食のバーベキューでは、会場のお米で作ったおにぎりやあか毛和牛などのほか、町民が持ちよったセルリーやサラダ菜などの新鮮野菜、わかさぎなども提供されました。参加したお母さんは、食べ物、全て産地をチェックしていたので、「洞爺湖町では、何も気にしなくてもよいだけでもリフレッシュできると安堵の表情を浮かべていました。

11日に洞爺湖温泉の噴水公園で行なわれた昼食会には、約150人が参加。おにぎりとかか毛和牛、新鮮野菜のほか、朝もぎたてのとうもろこしやホタテ焼きなども加わり、会場にはおいしい笑顔があふれていました。

**笑顔あふれた**

**虹田小学生との交流会**

町内に滞在している被災者の親子54人を招いて、虹田小学校

で、8月22日「スマイル交流会」が開かれました。

虹田太鼓少年団の演奏で被災者の皆さんを迎い入れた後、小松飛翔児童会長ら役員5人が「虹田小学校によるこそおいでくださいました。楽しい思い出を作り、元気になって帰ってください」と歓迎の挨拶を行いました。1、2年生が宮城県の郷土芸能「はねこ踊り」、3、4年生が沖縄県の「エイサー」、5、6年生が命をテーマにした「組体操」を披露。引き続きジェンカの曲に合わせて、負けた組が勝った組の後ろについていく「ジャンケン列車」ゲームが全員で行なわれ、盛りあがりました。

被災者の皆さんを励まそうと選曲した「スマイル・アゲイン」の全校合唱では、「スマイルアゲインうつむかないで：スマイルアゲイン笑って見せて」と歌う健気な歌声が会場に響き渡りました。最後に、参加した被災者を代表して宮城県県の吉田こころさん(中学1年)が「楽しい交流会ありがとうございました。震災を乗り越えて、前を向いていくことを再確認できました」とお礼の言葉を述べました。